



現場は学びの宝庫です

こんにちは！地域おこし協力隊の古田です。いよいよ夏本番！暑い日が続きますね。皆さまも熱中症などには十分気をつけてお過ごしください。

私の方は、アメリカ・ロサンゼルスから林業体験に来られた大学生 M さんのアテンドを行いました。M さんは東京都ご出身で、現在はカリフォルニア大学にて経済学とエネルギー開発について勉強されています。

大学で、未来のエネルギーに関する学びを深める中で、机上のデータや理論だけで議論が展開されることに疑問を感じ、実際に現場を体験したい！とのことから今回、林業体験に参加していただきました。

南条郡森林組合さん全面協力のもと、林業初任者向けの研修に参加し、伐倒を体験したり、大野市にあるバイオマス発電所を見学するなど、林業・エネルギー産業の川上から川下まで体感いただきました。

さらに、県庁と共同で実施している今庄・宅良地区のワークショップや玉村屋でのご飯会など、林業のみならず地域と関わる機会にも積極的に参加いただき、南越前町という地域を深く知っていただくことができました。

ワークショップでは数日の滞在に関わらず、具体的なアイデアをたくさん出していただき「今後も、アメリカからはオンラインで、一時帰国した際には南越前町に来て参加したいです！」といった、大変嬉しいお声もいただきました。

そして体験の最後には、「現場を見たことで、本やネットでは知ることのできない現実を学ぶことができました。課題がたくさんある一方で、林業の魅力や可能性を実感することができました」と、感想をいただきました。

今回の体験受け入れで感じたのは、世界トップレベルの教育環境で学ぶ方が、南越前町に魅力を感じ、「今後も関わりたい」と言ってくださったことへの可能性です。山も海も里もあり、多くの「現場」を持つ南越前町は、まさに身体を使って「生の体験」ができる場所であり、その体験を求めている人が日本だけではなく、世界中にいらっしゃることを M さんをアテンドする中で強く実感しました。

そして、今回の体験は多くの方々のご協力によって実現することができました。南条郡森林組合さん、協力隊 OG の宇野さん、診療所の新野先生、ワークショップを運営しているメンバーそして、町民の皆さま、本当にありがとうございました！

この調子で引き続き頑張っていきますので、応援よろしくお願いします！



MINAMECHIZENCHO_IJYU
Instagram



(写真中央) M さん、(写真右) 協力隊 OG の宇野さんと



こんにちは、地域おこし協力隊の牧野です。最近は空き家活用に関連することを調べたり学んだりする機会も増えてきました。

6月28日(日)に石川県加賀市で開催された「空き家カフェ」に参加しました。「空き家を持っている人」、「持っていて困っている人」、「持っていないけど使いたい人」がつながる場として始まった取り組みを学びました。

今回のテーマは「一部屋自由に使える部屋があったら何に使いますか」、「あなたの家にはスペース泥棒がいませんか」の2つでした。

ここでいう“スペース泥棒”とは、ご自身にとって生活には必要ないけれど、捨てられずに残してある大切なモノ(いつか使うかもしれないモノ)のことです。住まいの相談では、必ず「家に残っているモノ」の話が出てくるそうです。それらはスペース泥棒でしょうか、それとも大切な思い出でしょうか。

どちらであっても、持ち主の方が一度立ち止まって考えることが、住まいの未来を決める大切な一歩になります。まずはこの機会に、ご自身の家の“スペース泥棒”となっているモノを考えてみてみませんか。